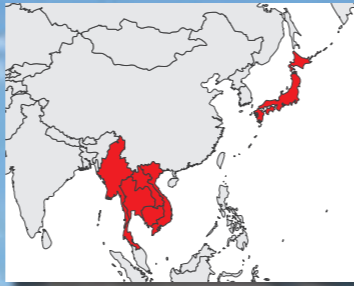



# メコン河が流れる国々



**日本**  
Japan  
【面積】38万km<sup>2</sup>  
【人口】1億2,747万人  
【一人当たりGDP】41,336米ドル



**ミャンマー連邦**  
Union of Myanmar  
【面積】68万km<sup>2</sup>  
【人口】6,119万人  
【首都】ネーピドー  
【主な言語】ミャンマー語  
【主な宗教】仏教  
【一人当たりGDP】469米ドル




130以上の少数民族が暮らす多民族国家で、働く人の半分以上が農業に携わっています。5,000万人を超える人口と豊富な天然資源、仏教遺跡などの多彩な観光資源を有しています。

**ラオス人民民主共和国**  
Lao People's Democratic Republic  
【面積】24万km<sup>2</sup>  
【人口】650万人  
【首都】ビエンチャン  
【主な言語】ラオス語  
【主な宗教】仏教  
【一人当たりGDP】964米ドル




49の民族が暮らすメコン地域で唯一の内陸国です。国内総生産の約40%を農業が占め、最近是有機農法による農産品も注目を集めつつあります。日本の青年海外協力隊(JOCV)が初めて派遣された国であり、2005年には日本との外交関係樹立50周年を迎えました。

**ベトナム社会主義共和国**  
Socialist Republic of Viet Nam  
【面積】33万km<sup>2</sup>  
【人口】8,826万人  
【首都】ハノイ  
【主な言語】ベトナム語  
【主な宗教】仏教  
【一人当たりGDP】1,168米ドル




人口の9割近くを占めるベトナム族(キン族)の他に53の少数民族が暮らす多民族国家です。働く人の約60%が農業に携わる一方、ドイモイ(刷新)政策によって、めざましい経済発展を遂げつつあります。最近では観光地としての人気も高く、日本人観光客の数も増加しています。2008年には日本との外交関係樹立35周年を迎えました。

**タイ王国**  
Kingdom of Thailand  
【面積】51万4,000km<sup>2</sup>  
【人口】6,765万人  
【首都】バンコク  
【主な言語】タイ語  
【主な宗教】仏教  
【一人当たりGDP】4,403米ドル



東南アジアの中で植民地にならなかった唯一の国です。1980年代以降、日本をはじめとする外国企業の受入を積極的に行い、経済発展を遂げました。2007年には日タイ修好120周年を迎えました。

**カンボジア王国**  
Kingdom of Cambodia  
【面積】18万1,000km<sup>2</sup>  
【人口】1,422万人  
【首都】プノンベン  
【主な言語】カンボジア語  
【主な宗教】仏教  
【一人当たりGDP】805米ドル



インドシナ半島の中央に位置し、メコン河と東南アジア最大のトンレサップ湖に代表される豊かな自然に恵まれた国です。主な産業は農業と世界遺産アンコール遺跡に代表される観光です。2008年には日本との外交関係樹立55周年を迎えました。

## ～日本とメコンーその交流の歴史～

### 交流のはじまりは、およそ600年前から

日本からの留学生が中国大陸に渡る遣唐使の時代(8世紀頃)。遣唐使を乗せた船が暴風雨に巻き込まれてインドシナ半島に漂着、安南(ベトナム)と接点をもったと伝えられています。日本とメコン地域の交流が活発になったのは、いまから600年ほど前と言われています。当時、琉球(沖縄)が中心になってメコン地域を含む東南アジア諸国との間で活発な貿易が行われ、貿易船は日本や朝鮮半島にも来航し、交易品の転売をしていました。琉球がメコン地域との間に形成した貿易ルートは、後の朱印船貿易につながっていきます。

### 朱印船貿易で、日本人が次々メコンへ

江戸時代初期、幕府はメコン地域を含む東南アジア諸国に赴く貿易船に朱印状(幕府公認の海外渡航許可証)を発行し、海外交易を奨励するようになります。この朱印船貿易によって、多くの日本人がメコン地域に移り住み、アユタヤ(タイ)、ホイアン(ベトナム)、ウドン(カンボジア)などに日本人町が形成されました。また、当時の日本では、アンコール・ワット(カンボジア)が仏教の聖地である祇園精舎と考えられていたことから、日本人のアンコール参詣が盛んになるなど、日本とメコン地域の交流は密なものになりました。その後の江戸幕府の鎖国政策に伴い、朱印船貿易は衰退していきました。



アユタヤ日本人町跡。最盛期には1,000人を超える日本人が住んでいたと言われています



日本人が建設したと言われるホイアンの来遣橋(通称、日本橋)。その街並みはユネスコの世界遺産に登録されています

### 交流の再開、そして戦争を経て新たな時代へ

江戸幕府の鎖国政策によって途絶えていたメコン地域との交流は、明治時代になって再開されました。1887年には、「日暹(にちせん)修好通商に関する宣言」(日タイ修好宣言)により、タイとの間に正式な国交関係を樹立しました。これは明治政府が東南アジア諸国と外交関係を結ぶ最初の条約でした。その後、日本は1937年に始まった日中戦争の行き詰まりを打開し、石油などの資源を確保するため、南方に進出する南進政策を開始し、日本とメコン地域諸国は不幸な戦争の時代に突入しました。しかし、1945年の終戦、その後の国際社会への復帰に伴い、メコン各国の間でも国交を回復しました。日本とメコン地域諸国は、新たな交流の時代を迎えることになります。

### かつてない広く深い交流の時代へ

戦後、日本は飛躍的な経済成長に伴い、政府開発援助の供与や企業の積極的な進出など、官民一体となってメコン地域諸国との交流を深めてきました。また、日本とメコン各国の間では要人の往来も活発で、1991年には天皇皇后両陛下がご即位後、初の外国訪問としてタイを、1999年には秋篠宮同妃両殿下が日本の皇室として初めてベトナムとラオスを、2001年にはカンボジアをご訪問され、2009年2月には皇太子殿下がベトナムをご訪問されました。そして2008年1月には、東京で初めての日メコン外相会議を開催し、2009年を「日メコン交流年」として、政治対話、経済・文化・青少年交流、観光といった様々な分野での交流を促進していくことを決定しました。日本とメコン地域諸国との関係は、今後ますます広く深いものになっていくことが期待されています。